

トップコミットメント

50年後、100年後を 考えた視点でのまちづくりで 価値を創造しつづけます。

Top Commitment

CSR 当面の展開テーマ

三菱地所グループは、グループ行動憲章の柱である「誠実な行動」「お客さまからの信頼」「活力のある職場」を実践し、社会に貢献する企業グループであり続けるよう、CSRを経営戦略の中心に据えています。さらなるステップアップをはかるため、2009年2月開催のCSR委員会におきまして、今後3～5年で重点的に取り組む展開テーマを、①環境経営の推進、②経営資源を活かした新しい社会貢献活動の推進、③活力のある職場の実現・活力のある人材の育成、の3つの柱とする方針を決定しました。

環境経営の推進

第一の展開テーマ「環境経営の推進」では、低炭素社会、循環型社会の実現、生物多様性の保全に寄与していきます。これらの実現は、

不動産商品に必須の「品質」と同時に、不動産ソリューションプロバイダーがエリア全体に対して果たすべき「責任」と考えています。

現在、賃貸ビル全体のエネルギー使用の約3分の2はテナントが占めています。そこで、首都圏地区にある当社の各ビルでは2008年から「地球温暖化対策協議会」を設置して、テナントの皆さまのご協力による省エネ活動の啓発や促進を進めています。

また、住宅事業でも、断熱性能の向上や潜熱回収型給湯器の導入など環境に配慮したマンションや戸建住宅の供給を推し進めています。さらに、環境やデザインに関する研究を深め、太陽光発電の促進をはじめ、お客さまにサステナブルな暮らし方を提案できる力を高める目的で、2008年に新会社(株)メックeco ライフを設立しました。

経営資源を活かした新しい社会貢献活動の推進

第二の展開テーマ「経営資源を活かした新しい社会貢献活動の推進」では、“都市と農山村が、お互いに元気になる社会”をめざし、2008年度から都市農山村交流活動「空と土プロジェクト」を開始しました。

日本では、耕作放棄地の増加や林業の衰退、あるいは心や身体の健康、食や環境問題など農山村部、都市部の双方が多く課題に直面しています。自然体験や農作業などさまざまな交流を通して、互いの課題を認識し、都市と農山村がともに支えあう「持続可能な社会」をつくることは、今の日本の社会にとって重要な課題であり、今後のCSRでも重要な意味を持ちます。三菱地所グループでは、都市住民を対象にした体験ツアーなどの交流機会を提供していくほ



三菱地所株式会社
取締役社長

木村 恵司



か、森林など地域資源の活用についても検討を進めているところです。この活動は緒に就いたばかりですが、ビジネスと社会貢献が融合する大きな可能性を感じますので、大事に育てていきたいと思えます。

活力のある職場の実現と人財の育成

第三の展開テーマ「活力のある職場の実現・活力のある人財の育成」では、「コミュニケーションの再生」を中心に、社員がわくわくと仕事に取り組む環境づくりを進めています。三菱地所グループでは、お客さまや社会からの「信頼」を基本としつつ、新しい「社会的価値」の創出に

挑む姿勢が事業の歴史を支えてきました。100年先を考えたまちづくりを成功させるには「多面的に考え抜き、粘り強く働きかける、腹の据わった人財」が必要です。三菱地所株では、求められる人財像を明確にして、2009年4月から人財育成制度改革を開始しました。

まちづくりの仕事

2009年4月、千代田区丸の内二丁目に、「丸の内パークビルディング」と「三菱一号館」が竣工しました。丸の内再構築においては、1998年からの10年を「第1ステージ」と位置付け、東京駅周辺を重点的に機能更新しながら6棟のビルの建替えを進めてきましたが、2008年から

の10年間は丸の内再構築「第2ステージ」と位置付け、再構築のさらなる「拡がり」と「深まり」をテーマに、地区全域にその効果を波及させる方針で、今回の開発がその第一弾となります。引き続き「(仮称)丸の内1-4計画」について2011年度の竣工をめざして進めていきます。「三菱一号館」は、本格的な美術館として2010年4月にオープンし、丸の内エリアの「文化芸術の中核施設」とする予定です。まちづくりは、多くの人々の想いと協力がなければ実現しません。大手町・丸の内・有楽町地区におきましては、1988年に「再開発計画推進協議会」、1996年に「まちづくり懇談会」が発足し、いわゆるP.P.P. (パ

ブリック・プライベート・パートナーシップ、官と民がパートナーを組んで事業を行うこと)の方式で、行政・自治体・地権者企業が協力して、約120ヘクタールの開発全体に関する基本構想やガイドラインを策定しています。例えば、ブロック単位で建物の高さを制限する、駐車場・熱供給・通信など設備を集約する、エリア単位で放射熱の抑制や風の道を確保する、電気自動車のカーシェアリングを共同実験する、観光促進や賑わいのためにさまざまな演出・イベントを実行するといったことは、このP.P.P.の成果として生まれました。ここで培ったノウハウは、大手町・丸の内・有楽町以外の地区でも活かしていきます。

こうした地域全体の価値向上をめざした官民連携や技術の導入におきまして、当社は「不動産ソリューションプロバイダー」として役割と責任を果たし続けたいと願っています。さまざまなステークホルダーが率直に話し合っ進む「まちづくり」はまさにCSRの実践ですし、良い協働モデルを示すことを含めて社会に対する三菱地所グループの責任であると認識しています。

2008年度の振り返りと 2009年度以降の取り組み

2008年度は、世界同時不況を背景として、オフィスビル賃貸市場では企業経営環境の急速な悪化に伴い空室率の上昇傾向が続くなどの動きが見られ、また、住宅市場では特に分譲マンションにおいて消費者の購入マインドの冷え込みなどにより市況が一変する中で、三菱地所

グループは、新ビルの稼働、新規連結子会社の増加などによる増収の一方で、マンション事業の業績悪化や円高の影響などにより、減益となりました。また、昨年のCSR報告書でお約束しましたCSRの施策と目標につきましても、いずれも適切な方向に進みつつあるものの、子会社・取引先への拡大、内容のさらなる深化など、課題が多く残っており、いまだ道なかばと自己評価しています。しかし、こうした厳しい時代にこそ、CSRを粘り強く続けることが活路を開くと確信しています。2009年度は、三菱地所グループのCSR経営を方向付けるうえで、大切な実行の年となります。グループ全

体で取り組むべき課題は、冒頭で触れました3つの展開テーマを中心に推進していきたいと考えています。また、すべての活動の前提である「コンプライアンス」を経営の最優先事項として引き続き徹底します。「人を、想う力。街を、想う力。」このコーポレートブランドに込めた三菱地所グループの心が皆さまにしっかり伝わるよう、CSRを経営そのものとして、目標の達成に全員で最善を尽くします。そして経営の最高責任者である私は、その牽引と結果を自身の任務と認識して、理想のCSR経営に真っ直ぐ突き進むことを皆さまにお約束申し上げます。

